



愛郷無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年07月21日号 NO.485

写真提供：大山市

Subject：商店街視察 鹿角花輪大町商店街の女将さん達

6月に大曲で初めて開催した秋田県内の商店街ネットワークづくり会議。その会議に鹿角・八幡平から女性商店主さんお二人も参加してくれました。二日間にわたり熱心に研修・臨店見学に参加され、とても喜んでお帰りになりました。

そのお二人が、地元商店街の女将さん達を口説いて20名の仲間を集め、7月16日、花火通り商店街の視察に来てくれました。早朝出発し、片道3時間をかけてバスで来ていただいたのですが、午前から夕方にかけて当商店街の6店舗を視察。私たちが並山さんから指導されてきたコトを実際の店舗でご紹介し、当商店街が取り組んで来たこと、今まさに取り組んでいることをご説明させていただきました。

地域が違えば事情も背景も全くことなります。業種毎の事情も様々。しかし駅前周辺の商業者が抱える悩みや問題の根本的な部分は共通しているコトが多いのです。今回は女性ばかりであり、外に出て行って様々な地域活動をしている男衆には任せておけないという危機感がみなぎっておりました。逆に私たちがたじたじになるほどのパワー。内にくすぶる火種へ着火するため大曲を訪れたたような印象を受けました。

私たちの想いと活動内容に大いに賛同いただきました。私たちが逆これまで進めて来た活動が少なくとも誤ってはいないのだと再認識することができ、とても有り難い機会となりました。早速、彼女達は隣接する商店街と一緒に、女性のためのまちゼミに着してみると意気揚々帰っていかれました。

商店街のネットワーク。行政がメンバーを集め、まとめよう、主導しようとするけどどうしても組織論や形式的な事業が多くなるものですが、今回のように志と危機感を同じにする仲間から半ば自然発生的に生じ、それを行政が影から後押しし・支える形であれば、メンバー各々が独自に有機的に繋がって様々な活動に昇華できる切っ掛けに十分なるという印象を受けました。

今秋には、にかほ市で志と危機感を同じくする人達で新らしく組織された商店組合さんが、同じように当商店街を視察に来たいと依頼が来ています。

私たちのまちづくりは未だスタートしたばかり。死ぬまで（死んでも）ゴールはないと思っています。ご当地グルメの仲間・八戸せんべい汁研究会さんのテーマは【まちづくりにゴールなし】です。視察される立場になったからといって決して驕らず、逆に様々なコトを教わりながら、未だ未だ研鑽を続けねばなりません。

私たちが様々な先達から教わって、見真似しながら進めている様々な活動を、臆することなく・秘することなく、どんどん仲間達にも伝え共有せねばなりません。【手本】ではなく、【見本＝サンプル】の一つとして利用してもらい、さらに改良されたモノを我々もまた学び返す。そんなご縁を広げて行けたらステキだと思っています。

脱皮できないへビは死に至ると申します。